

文化財ニュース いわき

第 82 号

令和 3 年 4 月 24 日

(公財)いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (68) 6775

令和 2 年度発掘速報展

【開催期間 令和 3 年 4 月 24 日(土)～6 月 20 日(日)】

いわき市では、旧石器時代から江戸時代までの埋蔵文化財包蔵地が1,480か所以上確認されています。これらの埋蔵文化財は、可能な限り現状のまま保存を図り、次世代へと引き継ぐことが大切です。しかし、開発行為などによりその保存が困難な場合には、記録保存のための発掘調査が行われます。

令和 3 年度第 1 回企画展「令和 2 年度発掘速報展」では、昨年度において市内等で行われた発掘調査の成果について展示し、市民の皆様にはいち早く最新のいわきの歴史を紹介いたします。

展示遺跡紹介

◆平城跡・旧城跡遺跡（平字旧城跡地内）

平城跡は、いわき駅の北側丘陵上に立地する本丸を中心に、周辺に配置された家臣の屋敷地や寺社を含み、その範囲は駅南側の沖積地一帯まで及びます。旧城跡遺跡は、本丸の立地する丘陵南西端に位置する弥生・古墳時代の遺跡です。

今回の調査は、「中心市街地活性化広場公園整備事業（仮称）磐城平城・城跡公園」に先立って実施されました。

調査の結果、磐城平城の本丸御殿を構成する礎石や柱穴などの一部が検出されました。さらに中世から近代までの遺構が重なりあって確認され、築城から戊辰戦争に至る平城の歴史が、残されていることがあらためてわかりました。

遺物は陶磁器、かわらけ、瓦などが出土しました。陶磁器は、肥前産の染付磁器が大部分を占めます。内容は組物や大型の製品が揃い、城主の屋敷に相応しい品です。



調査区真上（平城跡・旧城跡遺跡）



本丸御殿 礎石建物跡（平城跡・旧城跡遺跡）



調査区遠景（梅ノ作瓦窯跡群）



窯跡検出状況（梅ノ作瓦窯跡群）



遺物出土状況（梅ノ作瓦窯跡群）



溝跡検出状況（岡ノ内遺跡）

◆梅ノ作瓦窯跡群（小川町下小川字梅ノ作）

梅ノ作瓦窯跡群は、石森山丘陵から南西に延びる台地の斜面部に立地します。台地上には延喜式内社の二俣神社が鎮座し、台地西側に夏井川が流れています。過去の調査では、夏井廃寺跡や根岸官衙遺跡の軒丸瓦と同じ型の製品が出土しています。

今回の範囲確認調査は、5か年計画の4年目にあたり、二俣神社境内から北東側の斜面上に3本のトレンチを設定して実施されました。

調査の結果、須恵器の窯跡が5基確認されました。特に第1号窯跡からは、多くの須恵器が出土しました。杯蓋・杯・高台付杯・盤・甕・鉢・甌（円面甌）等の器種がみられ、製作年代は7世紀末頃と推察されます。

◆岡ノ内遺跡（平南白土字岡ノ内地内）

岡ノ内遺跡は、夏井川と新川が合流する地点の右岸丘陵中段に立地します。周辺には白土城跡や専称寺など、中世から江戸時代にかけての遺跡が所在しています。

今回の試掘・確認調査は道路改良工事を原因とし、予定地内に4本のトレンチを設定して実施されました。

調査の結果、2号トレンチからは溝跡2条、4号トレンチからは古代の竪穴建物跡1棟が検出されました。このほか、3号トレンチからは縄文土器等が多数含まれる遺物包含層も検出されています。遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、土錘、石器などが出土しました。

以上のことから、縄文時代や古代の遺構の存在が確認されました。

としておきましよう。

◆^{しんはやし い せき}新林遺跡 (平藤間字新林地内)

新林遺跡は、太平洋の現汀線から約900m内陸の沖積地に立地します。

今回の試掘・確認調査は市道改良工事を原因とし、予定地内に5本のトレンチを設定して実施されました。

調査の結果、2号トレンチからは溝跡が検出されました。底面が2面確認されたことから、この溝跡は2時期に分けられる可能性が高いと考えられます。4号トレンチからは溝跡、^{たてあなじょういこう}竪穴状遺構、ピットが検出されました。これらの遺構内からは、土師器・須恵器が出土していることから、古代に位置づけられます。このほか、^{やよい とき}弥生土器も少量ですが出土しています。

以上から、調査区内には古代の遺構の存在が確認されました。



溝跡検出状況 (新林遺跡)



遺物出土状況 (新林遺跡)

◆^{おおたか ば ば い せき}大高馬場遺跡 (勿来町大高宮前地内)

大高馬場遺跡は、^{びんだがわ}蛭田川の左岸に位置し、^{あぶ}阿武隈高地から1段下がった台地の北側先端部に立地します。

今回の試掘・確認調査は^{てつとうけんせつこうじ}鉄塔建設工事を原因とし、予定地内に4本のトレンチを設定して実施されました。

調査の結果、1号トレンチから^{おおがた どころ}大型土坑、^{しやうせい い こう}竪穴状遺構、焼成遺構、3・4号トレンチからは底面にピットを伴う竪穴状遺構が検出されました。これらの竪穴状遺構は、形態から竪穴建物跡である可能性が考えられます。遺構内からは、土師器・須恵器が出土していることから、古代に位置づけられます。

以上のことから、調査範囲周辺には古代の^{しゅうらく}集落が広がっていることが確認されました。



作業風景 (大高馬場遺跡)



遺構検出状況 (大高馬場遺跡)

とじておき井ごよう。



調査区全景（平城跡）



溝跡土層堆積状況（平城跡）



調査風景（山下谷遺跡）



遺物出土状況（山下谷遺跡）

◆平城跡（平字田町地内）

試掘・確認調査は、いわき駅のホームのすぐ南隣に建設されるホテル建設工事を原因とし、工事予定範囲に6か所のトレンチを設定して実施されました。

調査の結果、溝跡、石組遺構、柱穴などが検出されました。

磐城平城が描かれた絵図で調査地点を調べると、ちょうど内堀の南端にあたります。このことから、検出された溝跡は内堀である可能性があります。石組遺構は、磐城平城が廃城になってから鉄道が開通するころまでに造られたものと考えられます。

出土遺物は、陶磁器では碗・皿のほか蕎麦猪口、紅猪口、燈明皿などがあり、ほかに瓦、ワイングラスと推測されるガラス製品、「谷繁与」銘の墨書木簡、獣骨など、江戸時代から明治期にかけての生活用品が数多く出土しました。

◆山下谷遺跡（川前町川前字山下谷地内）

山下谷遺跡は、標高330～340mの夏井川南岸の河岸段丘上に位置します。

発掘調査は、昭和50年に山下谷橋の架け替えに伴う新道付設の事前調査として実施されました。

遺構は、縄文時代後期後葉～晩期中葉の深鉢棺14基、縄文時代晩期の配石遺構1基、近世墓2基が検出されました。深鉢棺の1基からは、ヒトの手の骨が検出され、再埋葬の遺体が納められていたと考えられます。また、縄文時代後期中葉～晩期末までの多量の縄文土器のほか、土製品や石器・石製品が出土しました。資料整理は、平成30年度～令和2年度の3カ年にわたって実施され、報告書が刊行されました。

とじておきましょう。